

会社を100年以上続けていくためには、「優れたビジネスモデル」、「他社が真似できない商品」、そして次世代の経営者となる「後継者」の3つの要素が欠かせません。これらの要素がある程度の期間にわたってうまく機能しなければ、会社は100年続いていきません。

しかし、これらの要素だけで会社を100年続けていくことは難しいでしょう。

先に挙げた3つの要素は会社内部の要素であり、いわば会社のソフトに当たります。世の中は刻々と変化していきます。会社が存在し続け、また

連載

120年続く100年企業コンサルタントが伝える「つぶれない会社」をつくるために100年続く老舗の教え!

第6回

100年企業に向けて「ホールディングカンパニー」のすすめ

藤間公認会計士税理士事務所 所長

藤間 秋男

成長を続けていくためには、ソフトも時代に応じて変化していくことが求められます。

そこで、ソフトの継続と変化をうまく機能させる仕組み「ボード」が必要となります。そのひとつが「ホールディングカンパニー」の活用です。

ホールディングカンパニーとは持株会社のこと、複数の企業を統制して1つの企業グループとするための「グループの核」、いわゆる親会社のことをいいます。

持株会社には、株式の保有およびグループ会社の統轄のみで、自ら事業は行わない「純粋持株会社」と、自らも何

らかの事業を行う「事業持株会社」の2種類があります。

一般的にホールディングカンパニーといったときは、純粋持株会社を指すことが多くあります。かつての日本の財閥

本社などは典型的な純粋持株会社でした。戦後、日本では独占禁止法によって長い間純粋持株会社が禁止されていま

したが、1990年代の金融ビッグバンの一環による独占禁止法の改正により、純粋持株会社が解禁されています。

また、中小企業の場合は、ホールディングカンパニーを会社オーナーの相続対策として検討するところも多くなっ

ています。次世代に円滑に株を承継することは、100年企業をつくるための必須条件であり、ホールディングカンパニーはそれを実現するための1つのツールとなります。

次回以降でホールディングカンパニーを活用した相続対策から設立手法、税務的な注視点などを具体的にお話ししていきます。

藤間 秋男(とうま あきお)

公認会計士・税理士・中小企業診断士・行政書士。1952年生まれ。慶應義塾大学卒業。82年藤間公認会計士税理士事務所開業。経営改善、財務強化、節税対策、経営計画、相続・事業承継対策などをテーマとした戦略と実践プログラムで好評を博す。現在有資格者40名を含む、総勢140名のTOM Aコンサルタントグループの代表。著書に「法人税節税チェックポイント78」他多数。